

式 辞（高等部）

中庭の桜の枝に、小さな赤い芽がつき、春の準備を始める季節となりました。春の息吹を感じるこの佳き日に、本校を巣立つ21名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご来賓のお二方ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、福岡県立築城特別支援学校高等部第10回卒業証書授与式を厳粛に挙行できますことを感謝申し上げます。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止に気をつかいながらの学校生活が続きました。しかし、そのような困難な状況の中でも、皆さんは常に前向きに明るく元気に学校生活に取り組んでくれました。全校集会では、生徒会役員や各専門委員を中心に、毎回動画を作成してくれて、全校児童生徒が興味をもって集中して視聴できるように工夫してくれました。また、本校最大の行事である「おおぐす祭」は、今年度も外部の方には公開できませんでしたが、「作品展示・作業学習販売会」として、感染対策を徹底しながら実施することができました。『想いをカタチに！』のスローガンにふさわしく、皆さんの想いがこもった作品を鑑賞したり購入していただくことで、保護者の皆様にも大変喜んでいただきました。また、初めての試みとして、10月中旬より「校内eスポーツトーナメント」を実施し、当日は展示・体験コーナーを設けるとともに、トーナメントの決勝戦を実施し、その模様が校内にオンライン中継されました。多くの希望者が参加してくれて、部門や学部をこえて一緒に活動することで、協力したり喜びを分かち合う様子が見られ、大変有意義な取組となりました。まさに校歌にあるように「明るい笑顔 あふれくる」1日となりました。

また、校長としてとても嬉しかったのは、昨年度は中止になった修学旅行が実施できたことです。友人や担任と協力して体験活動を楽しんだり、お土産を

選んだり食事を楽しむ姿を見て、一緒に最高の思い出作りができたことに喜びを感じました。

皆さんは高等部での学びや経験を積み重ねて大きく成長しました。一人一人が築城モデル「感じのいい人」を目指して挨拶を心がけ、校訓のとおり「げんきで なかよく たくましく」成長した皆さんを誇りに思います。

最後に私から「感じのいい人」のお手本となる人を紹介したいと思います。それは皆さんもよく知っているフィギュアスケートの羽生結弦選手はにゅうゆうづるです。羽生選手は今回の北京オリンピックで、史上2人目となるオリンピック3連覇を期待されましたが、惜しくも4位に終わりました。ショートプログラム最初の4回転サルコーというジャンプを失敗して演技を終えた羽生選手ですが、そのあとの振る舞いが素晴らしかったのです。演技直後に自分の得点を見届けると、次の出場者宇野昌磨選手うのしょうまに対して、誰よりも長く大きな拍手をして出迎えていました。リンクを出る際には、ドアを開けたり閉めたりしてくれるスタッフに深く頭を下げていました。そして、報道陣の前に姿を現すと、「よろしくお願ひします。ありがとうございました」とお礼の言葉を述べ、「なんか氷に嫌われちゃったな」とか「一日十善ぐらいしないといけないのかな」などと聞き手の緊張を和らげるように自分の演技を振り返り、最後は「ありがとうございました。つぎがんばります！」と明るく締めくくり、深々と頭を下げたのです。

人は生きていれば思い通りにいかないことや失敗することもたくさんありますが、羽生選手のように自分を支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを持ち続けてほしいと思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。本校の教育活動、PTA活動にいつも温かいご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。そして、ともにお子様を導き、すばらしい築城っ子を育めたことに心から感謝しております。

卒業生の皆さん、いよいよお別れです。皆さんの前途に笑顔があふれ、それ

それぞれの進路で輝くために、自分らしい「できる」を積み重ねていかれることを願って、式辞といたします。

令和4年 3月1日

福岡県立築城特別支援学校長 白川 英治